

様式4

学校番号
(中 1 5)

学校名
(光が丘第一中学校)

教科名
(美術)

指 導 技 術		観 点 別 の 授 業 改 善 の 視 点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手立て	発想や構想の能力を向上させるための手立て	創造的な技能を向上させるための手立て	鑑賞の能力を向上させるための手立て
導入	(規律) 休み時間中に移動し、用具、道具の準備を済ませ、チャイムが鳴った時点で授業を開始できるように、毎時間授業遅刻者と忘れ物の点検をする。 (板書) 本時の単元名と目標を板書し、明確にする。 (参考資料の提示) 見本となる作品や作家の作品などを提示し、イメージを膨らませる。	・身近にあるものを資料として採り上げることによって関心を高めさせる。 ・普段の生活と美術を関連させながら話をし、生活の中に美術が関わっていることに気付かせ、関心を高めさせる。	・参考資料や授業に関連する身近なものを提示し、イメージを持たせ、アイデアをよく考えさせる。	・表現方法、道具、用具の使用方法を十分理解させることによつて技術の向上を促す。	参考作品の説明の中で過去の有名作品、作家の紹介、美術史など関連知識を広げていく。
展開	(アイデアスケッチ) 目的や制作上のポイントを理解させ、アイデアスケッチを行わせる。 (実習指導) 作品制作。目的やポイントを十分理解させ、意識しながら作業に取り組むようにさせる。 (机間指導) 個別にアドバイス、実技指導を行う。 (安全指導) 道具、教材の正しい使い方を十分理解させ、実行させる。	・作品を制作する上でのコツやポイントを理解させ、難しく考えさせずに、意欲的に作業に取り組ませる。 ・初めに基本的なことを練習し、その後段階をおって本格的な作業を行っていくよう指導する。	・ありふれた考え方にまともならないように、独自の発想を大事にしながら助言を行う。 ・独創的な発想をしている生徒の作品を全体に紹介し、よりよいアイデアを考えさせる。	・十分な技術指導を行い、コツやポイントを理解させる。 ・机間指導の際に実演実習を行い、具体的に作業手順や工程、安全性を十分理解させる。	・自他の作品を鑑賞させ、作者が作品に込めた意図を読み取る力や理解する力、考える力を養う。 ・友人の作品のよいところを見つけ、自分の作品に活かせるようにする。
まとめ	(授業構成) 本時内容のまとめを行い、成果と反省を確認させる。 (板書) 次回の予定、連絡の確認をする。 (授業規律) 後かたづけ、清掃をさせる。	・よいところを褒め、次回以降の作業への意欲を高める。 ・片付けは自分のところだけでなく、協力しながらさせるようにする。	・自他の作品を評価しあい、よいところを吸収し、自分の作品に活かせるようにする。	・作品の完成が間近に迫っていても、最後までこだわりをもって作業させるようにする。 ・最後まで手を抜かずに作業したことを褒める。	・思ったことや感じたことをまとめる活動をする。